

## JCRによる格付けの見直し

住商リースは、12月8日付にて株式会社日本格付研究所(以下“JCR”)より格付けの見直しを受け、以下のとおり長期優先債務の格付「A+」を新規に取得するとともに、想定債券及びユーロMTNプログラムの格付「A+」を維持しました。また、コマーシャルペーパーについては、格付は最上位「J-1」を維持し、発行限度額は4,600億円から5,000億円に増額となりました。

### 発行体:住商リース株式会社(証券コード:8592)

【対象】	【発行枠】	【格付・見直し】
長期優先債務		「A+」・「安定的」(新規取得)
想定債券	500億円	「A+」(維持)
ユーロMTNプログラム	10億米ドル相当額	「A+」(維持)
コマーシャルペーパー	4,600→5,000億円(増枠)	「J-1」(維持)

### 【JCRによる格付事由】

- (1)総合リース大手の一社で、住友商事の持分法適用関連会社。格付けには、(1)営業戦略に裏付けられた本業での収益力(2)資産健全性の高さ(3)自己資本の厚みーが反映されている。一方で、(1)住友商事グループや近年子会社化したエムジーリース、浜銀ファイナンスの商圈を活かした営業基盤の強化(2)フィービジネスや中古物件売買の強化を通じた収益源の多角化ーの一層の推進が課題である。格付けの見直しは安定的である。
- (2)リース・割賦の重点機種や戦略分野ビジネスを明確に定めた営業戦略により、比較的採算のよい取引の割合が増えており、新規契約の利回りは改善してきている。またボリュームの点でも、リース・割賦は順調に拡大、不動産ノンリコースローンや船舶ファイナンスを中心に営業貸付金の取扱いが伸び、営業資産残高も増加しているなど、総じて営業面では堅調な推移が展望される。
- (3)営業資産利回りが比較的良好であること、低廉な資金調達コストに加えて短期調達比率を高め積極的に長短ギャップによる収益を享受していることから、資産対比の収益力は同業他社中で高い水準を維持している。短期金利が急上昇する局面では利益の圧迫が予想されるが、ALM管理体制が整備されていることもあって、信用力に大きな影響を及ぼさない範囲に留まると見られる。
- (4)資産内容は高い健全性が確保されている。営業貸付債権が大きく増加しているが、保守的な与信方針、またリスク管理の状況に照らして、内容に特段の懸念はないと判断される。内部留保の積み上げにより資本充実度は向上してきており、05/9末連結自己資本は1,045億円、自己資本比率は8.2%と良好な水準にある。